

倫理学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 semester	開講曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
倫理思想概論	倫理学の基礎	2	村山 達也	3	前期 金曜日 4講時	
倫理思想概論	ケーススタディで学ぶ 倫理学	2	小松原 織香	4	後期 火曜日 2講時	
倫理思想基礎講読	フランス倫理学演習	2	村山 達也	3	前期 水曜日 2講時	
倫理思想基礎講読	倫理学研究のレッスン (1)	2	村山 達也	3	前期 水曜日 3講時	
倫理思想基礎講読	フランス倫理学演習	2	村山 達也	4	後期 水曜日 2講時	
倫理思想基礎講読	倫理学研究のレッスン (2)	2	小松原 織香	4	後期 水曜日 3講時	
倫理思想各論	ジェンダー/セクシュアリ ティと倫理	2	小松原 織香	5	前期 火曜日 2講時	
倫理思想演習	ジェンダーの視点から 倫理を議論する	2	小松原 織香	5	前期 月曜日 3講時	
倫理思想演習	フランス倫理学演習	2	村山 達也	5	前期 水曜日 2講時	
倫理思想演習	環境の視点から倫理を 議論する	2	小松原 織香	5	前期 水曜日 4講時	
倫理思想演習	論証で辿る西洋倫理学 史	2	村山 達也	5	前期 金曜日 2講時	
倫理思想演習	ジェンダーの視点から 倫理を議論する	2	小松原 織香	6	後期 月曜日 3講時	
倫理思想演習	フランス倫理学演習	2	村山 達也	6	後期 水曜日 2講時	
倫理思想演習	環境の視点から倫理を 議論する	2	小松原 織香	6	後期 水曜日 4講時	
倫理思想演習	人文学の意義を倫理学 的に考える	2	村山 達也	6	後期 金曜日 2講時	

科目名：倫理思想概論／ Western Ethical Thought (General Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LB35402, 科目ナンバリング：LHM-PHI207J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：倫理学の基礎

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Ethics

3. 授業の目的と概要：「何が善いことで、何が悪いことなのか」「善悪など人それぞれではないのか」「そもそもなぜ善いことをしなくてはいけないのか」「幸福とは何か」「道徳と幸福にはどんな関係があるのか」「生きることに何の意味があるのか」……。こうした、人間の生き方の価値をめぐって生じるさまざまな問題について、できるかぎり明確に、理論的に答えようとするのが倫理学です。

この講義を受講することで、現代倫理学の基礎知識や、そこで用いられる（やはり基礎的な）思考法についてひととおり学ぶことができます。ただし「現代」倫理学に特化しますので、倫理学的な側面については必要な範囲で触れるにとどまります。また、理論的な問題に特化しますので、いわゆる応用倫理学の問題については事例として簡単に挙げる程度です（事例としては動物倫理に関連することを多く用います）。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：These lectures will provide an introduction to ethics. Topics covered will include normative ethics, metaethics, happiness and the meaning of life; contemporary debates on justice; relation between morality and religion.

5. 学習の到達目標：(1) 倫理学の基礎知識（基本的な問題と主要な回答、ならびに重要な反論）を身につける。

(2) 倫理学が用いる方法についての基礎知識を身につける。

(3) 倫理的な問題設定や考え方が自分でもできるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The main purpose of this course is to provide basic knowledge of contemporary ethics (problems, theories, and objections), and help students consider moral problems by themselves.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

基本的にはオンデマンド（資料配布）で進めます。

第一回：導入：倫理学とは何か

第二回：価値の相対主義：道徳や幸福は人それぞれなのか

第三回：質問への回答

第四回：善悪の規準は何か：第一の答え

第五回：善悪の規準は何か：第二の答え

第六回：善悪の規準は何か：第三の答え

第七回：質問への回答（余裕があれば、現代の正義論）

第八回：善悪という性質は客観的なものなのか

第九回：道徳は人を動機づける力をもつか

第一〇回：質問への回答（余裕があれば、道徳と宗教の関係）

第十一回：幸福とは何か：道徳と幸福の関係

第十二回：幸福とは何か：現代の福利(Well-Being)論

第十三回：人生に意味はあるか

第十四回：質問への回答、ならびに試験についての説明

第十五回：全体のまとめ

理解度を確認し、理解の深化を図るため、毎回アンケートを取り、みなさんからの質問に答える回を定期的に設けます。取り上げるべき質問が多い場合は回答に二回使うこともあるでしょう。それゆえ、そうした回の内容や分量によって、上記の目的の範囲内で、授業計画全体には変更がありえます。以上の予定はあくまで「予定」です。

8. 成績評価方法：

ほぼ学期末試験のみで行ないます。

9. 教科書および参考書：

教科書は不要です（必要なものはプリントを配布します）。参考文献は講義内で適宜紹介します。

10. 授業時間外学習：講義内容がやや豊富なので、適宜復習し、参考文献にもあたることを望ましい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

特別な予備知識は不要です。なお、演習や卒論指導にあたっては、本講義に相当する内容が既習であることを前提としますので、倫理学専攻の学生はできるかぎり履修してください。

科目名：倫理思想概論／ Western Ethical Thought (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：小松原 織香

コード：LB42203, 科目ナンバリング：LHM-PHI207J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ケーススタディで学ぶ倫理学

2. Course Title (授業題目)：Ethics case studies

3. 授業の目的と概要： 倫理学は「善い人」になるための学問ではありません。人間の行為はどのように正当化されるのかを学び、道徳の多様性を学ぶことが倫理学の目的です。本講義では、現代の人々の倫理観の多様性に触れ、基礎的な倫理思想の理論とその背景を学びます。

世界中に多種多様な倫理思想がありますが、本講義は西洋で多用される理論を中心に紹介します。残念ながら全てを網羅することは難しく、アジア、アフリカ、中東、南米等の倫理観には言及できませんが、倫理思想を研究する足がかりの第一歩として、西洋倫理思想を学んでいきます。

本講義はケーススタディを行います。私はセンシティブなテーマも扱うので、受講する前に必ず内容を確認して、慎重に判断してください。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)： Ethics is not the study of being a 'good person'. The purpose of ethics is to study how human actions are justified and to study the diversity of morality. In this lecture, you will be exposed to the diversity of ethics among people today and learn about the theory and background of basic ethical ideas.

Although there is a wide variety of ethical thought around the world, this lecture will focus on theories frequently used in the West. Unfortunately, it is difficult to cover all of them, and we cannot mention ethics from Asia, Africa, the Middle East, South America, etc. However, we will study Western ethical thought as a first step towards a study of ethic.

This lecture will involve case studies. I will also cover sensitive topics, so please be sure to check the content and make a careful decision before taking the course.

5. 学習の到達目標：(1) 現代の倫理的課題を発見することができるようになること。

(2) 倫理思想の基礎知識を身につけること。

(3) 倫理問題に対して、各倫理思想に基づいた合理的判断を示すことができること。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To be able to identify contemporary ethical issues.

(2) To acquire a basic knowledge of ethics.

(3) Be able to demonstrate rational decisions on ethical issues based on the respective ethical ideas.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回： 倫理学とはなにか (授業ガイダンス)

第二回：「兵役を拒否する権利はあるのか？」(権利論)

第三回：「貧しい女性がお金を稼ぐために代理母の仕事をするのを禁止すべきか」(法と道徳)

第四回：質問への回答・ディスカッション・ミニレポート・映像教材視聴

第五回：「抗議活動の見せしめに警官が活動家を殺して秩序を保つことは正しいか？」(功利主義)

第六回：「人を殺した友達をかくまうために嘘をついてもよいか？」(義務論)

第七回：「明らかに間違っている患者の要望を、医師は受け入れるべきか？」(徳倫理学)

第八回：質問への回答・ディスカッション・ミニレポート・映像教材視聴

第九回：「貧しい家庭で育った子どもに奨学金を出すべきか？」(リベラル平等論)

第十回：「警察を民営化し、警備会社と契約すべきか？」(リバタリアニズム)

第十一回：質問への回答・ディスカッション・ミニレポート・映像教材視聴

第十二回：「地方に生まれた者は地元に残るべきか？」(コミュニタリアニズム)

第十三回：「市民による議論でものごとを決めることは良いことか？」(共和主義)

第十四回：質問への回答、ならびに試験についての説明

第十五回：全体のまとめ

毎時間、コメントシートを書いてもらいます。人数に応じて小グループで議論する機会を持つことがあります。積極的な授業参加を評価します。

みなさんから寄せられた質問に回答する回を定期的に設けます。

授業の理解度に合わせて進むスピードを調整します。

柔軟に授業の計画を変更しますので、あくまでも以上は授業の予定です。

8. 成績評価方法：

出席・コメントシート等の平常点 30%

学期末試験 70%

9. 教科書および参考書：

教科書

教科書はありません。必要に応じて資料を配布します。

参考書

赤林朗・児玉聡編『入門・倫理学』勁草書房、2018年。

10. 授業時間外学習：授業の予習復習をして、参考書に目を通してください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：倫理思想基礎講読／ Western Ethical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LB33204, 科目ナンバリング：LHM-PHI215J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：フランス倫理学演習

2. Course Title (授業題目)：Seminar on French Moral Philosophy

3. 授業の目的と概要：フランスの高校生用の哲学の参考書 Denis Vanhouette, Philosophie, Term L, ES, S (Collection ABC du BAC), Nathan, 2015 から一部を抜粋して読みます。この参考書は、意識、他者、言語、労働、社会、幸福などのさまざまな主題ごとに章が分かれており、各章とも、関連するさまざまな問題や、その問題にさまざまな哲学者が出した答えを紹介し、最後に大学入学資格試験（日本の共通テストのようなもの）の問題が載っている、という作りになっています。それぞれのテーマについて学べるだけでなく、フランス社会での哲学倫理学の利用のされ方についてもいろいろ学ぶことのできる、とても興味深い本です。参加者の希望も聞きながら章の一つを選び、適宜カットしながら、できるだけその章の全体を読みます。各回とも全員に訳文を提出していただきます。ただし、各回とも訳文作成のためのヒントを事前に配布しますし、文法事項を丁寧に確認しながら進めますので、文法に不安がある場合でも受講できます。

なお、上記参考書の最新版はこちらです。

<https://site.nathan.fr/livres/philosophie-terminale-abc-du-bac-excellence-bac-2023-enseignement-commun-tle-cours-appfondissement-methode-exercices-et-sujets-corriges-cahier-special-bac-9782091574899.html>

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course we read a philosophy textbook for French high school students. The prospective key themes covered are Work and Technology.

5. 学習の到達目標：フランス語で書かれたテキストを正確に日本語に訳せるようになる。

演習内で扱われた主題が倫理学においてもつ重要性を学ぶ。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course aims to improve students' abilities to read philosophical texts in French and to translate them to Japanese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：導入（扱う主題とテキスト、著者の簡単な紹介、テキストの配布、進め方の説明、参加者のフランス語習熟度の確認、担当の決定など）

第二回以降：訳読、報告、議論

8. 成績評価方法：

出席、担当、参加度により総合的に判断します。

9. 教科書および参考書：

必要なものはすべてプリントで配布します。

フランス語学習については初級～中級までの参考書を授業内で紹介します。

10. 授業時間外学習：各回とも訳を用意し、授業前に提出してください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：倫理思想基礎講読／ Western Philosophical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LB33306, 科目ナンバリング：LHM-PHI215J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：倫理学研究のレッスン (1)

2. Course Title (授業題目)：Western Ethics (Introductory Reading)

3. 授業の目的と概要：この演習は、哲学・倫理学の文献を正確に読解し、そこで展開されている議論をまとめ、それにもとづいて討論したり発表したりする力を身につけるためのものです。

最初の 10 回程度は、教員が選んだテキストをもとに、適宜講義を挟みつつ、レジュメを作成したり、テキストをもとに議論したりする訓練を行います。倫理学の村山と哲学の教員一名が、ほぼ半分ずつ担当します。また、最後の 5 回程度は、みなさんに自分の問題関心にもとづいた発表を行っていただき、それをもとに議論します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We shall read a couple of chapters from introductory texts of philosophy and ethics. Previously appointed participants will make a brief report on an assigned passage and then all of us will discuss it. In the last four sessions previously appointed participants will give a presentation on the topic of their choosing and then all of us will discuss it.

5. 学習の到達目標：(1) 哲学・倫理学の文献を読み、議論をまとめ、それにもとづいて討論する能力を身につける。

(2) 哲学・倫理学の文献を踏まえつつ、自分の問題関心で議論を展開することができるようにする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Become able to understand and discuss texts of ethics.
Become able to find and discuss topics in ethics.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態：対面授業のみ

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

1. ガイダンス

2. 倫理学の入門的テキストの講読(1)

3. 倫理学の入門的テキストの講読(2)

4. 倫理学の入門的テキストの講読(3)

5. 倫理学の入門的テキストの講読(4)

6. 倫理学の入門的テキストの講読(5)

7. 哲学の入門的テキストの講読(1)

8. 哲学の入門的テキストの講読(2)

9. 哲学の入門的テキストの講読(3)

10. 哲学の入門的テキストの講読(4)

11. 哲学の入門的テキストの講読(5)

12. 発表と討論(1)

13. 発表と討論(2)

14. 発表と討論(3)

15. 発表と討論(4)

8. 成績評価方法：

報告、討論、数回のコメントペーパーによる平常点 (60%) と、最後の発表ないしレポート (40%) で評価します。

9. 教科書および参考書：

必要なものは配布します。

参考書は演習内で指示します。

10. 授業時間外学習：事前にテキストを読み理解に努めてください。報告担当になったときには、事前に教員および TA に相談し、レジュメについてアドバイスを受けるようにして下さい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

具体的な進め方は初回の授業のときに説明します。

倫理学専修の 2 年生はこの水 3 の授業を必ず履修するようにしてください。他の専修の方は事前または初回時に教員とご相談ください。

科目名：倫理思想基礎講読／ Western Ethical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LB43205, 科目ナンバリング：LHM-PHI215J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：フランス倫理学演習

2. Course Title (授業題目)：Seminar on French Moral Philosophy

3. 授業の目的と概要：行為の哲学や感情の哲学の分野で著名な哲学者であるクリスティーヌ・タポレの論文「自律と意志の弱さとをめぐるパラドクス」を読みます。「自律は自己コントロールを要求する（自分の行為を自分で決定するためには、自分を自分で制御できないといけない）」、「自由は自律を要求する（自由であるためには、自分の行為を自分で決定できないといけない）」、そして「意志の弱さによる行為も自由でありうる」という、一見すると自明な三つの命題から、パラドクスを取り出し、自由をめぐる問題に鋭く切り込んでいく、実質3ページ程度ととても短いながらも明快かつとても面白い論文です。適宜カットすれば半期で読み切れると思います。

各回とも全員に訳文を提出していただきます。ただし、各回とも訳文作成のためのヒントを事前に配布しますし、文法事項を丁寧に確認しながら進めますので、文法に不安がある場合でも受講できます。

なお、タポレの紹介ページはこちらです。

<https://recherche.umontreal.ca/english/our-research+F35hers/professors-directory/researcher/is/in14507/>

論文はこちらです。学内からダウンロードできます。

<https://www.cairn.info/revue-raison-publique-2017-2-page-153.htm>

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course we read Christine Tappolet's article "Autonomie et faiblesse de la volonté : un paradoxe". The key themes covered are: autonomy, weakness of the will, self control, and freedom of the will.

5. 学習の到達目標：自由や自律、意志の弱さの関係について学ぶ。

また、これらの主題が倫理学においてもつ重要性を学ぶ。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course aims to improve students' abilities to read philosophical texts in French and to translate them to Japanese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：導入（扱う主題とテキスト、著者の簡単な紹介、テキストの配布、進め方の説明、参加者のフランス語習熟度の確認、担当の決定など）

第二回以降：訳読、報告、議論

8. 成績評価方法：

出席、担当、参加度により総合的に判断します。

9. 教科書および参考書：

必要なものはすべてプリントで配布します。

フランス語学習については初級～中級までの参考書を授業内で紹介します。

10. 授業時間外学習：各回とも訳を用意し、授業前に提出してください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：倫理思想基礎講読／ Western Ethical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：小松原 織香

コード：LB43305, 科目ナンバリング：LHM-PHI215J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：倫理学研究のレッスン (2)
2. Course Title (授業題目)：Ethics for Beginners 2
3. 授業の目的と概要： この授業は前期の「倫理学研究のレッスン (1)」の続編です。倫理学専修の2年生は前期・後期ともに履修して下さい。
この授業の目的は、哲学・倫理学の文献を正確に読解し、そこで展開されている議論について発表し、討論する力を身につけることです。
前半は英語のテキストについて、担当者が担当箇所の訳読や要約を発表します。後半は、担当者がみずから選んだテーマについて発表してもらいます。
なお、前期・後期を通じて1人1回は自由テーマで発表していただきますので、後期は前期に割り当てられなかった方の担当です。後期に発表をしない人も、期末レポートは提出していただきます。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)： The aim of this course is to give students the ability to read, present and discuss the literature of philosophy and ethics.
The first half of the course consists of reading philosophical texts in English. In the second half of the course, students will give a presentation on a topic of their own choice.
5. 学習の到達目標：(1) 哲学・倫理学の文献を読み、議論をまとめ、発表・討論する能力を身につける。
(2) 哲学・倫理学の文献を踏まえて、自分の問題関心にそって探究する力を体得する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)： Become able to understand and discuss philosophical texts written in English. Become able to find and explore philosophical topics.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス
 - 2～9. 英語による基礎文献の講読・発表
 - 10～15. 発表と討論
(参加者の人数などにより、内容を変更することがある。)
8. 成績評価方法：
英語テキストの報告や討論 (50%)。後半の発表、ないし学期末レポート (50%)。
9. 教科書および参考書：
授業のなかで説明します。
10. 授業時間外学習：英語テキストを読む回では、予習を欠かさないようにしてください。
発表の際は、担当者は事前に教員およびTAに相談し、アドバイスを受けてください。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
哲学・倫理学以外の学生、または3年生以上の学生が受講を希望する場合は、事前に担当教員に相談してください。

科目名：倫理思想各論／ Western Ethical Thought (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：小松原 織香

コード：LB52205, 科目ナンバリング：LHM-PHI307J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ジェンダー/セクシュアリティと倫理

2. Course Title (授業題目) : Gender/sexuality introduction

3. 授業の目的と概要： 応用倫理学では、理論だけではなく、社会問題が起きている現場のリアリティを学びながら、「私たちはどう行動すべきか」を検討しなければなりません。本講義では、ジェンダー/セクシュアリティをテーマに挙げ、社会問題の背景にある歴史的な脈・社会構造を学びながら、倫理的考察を進める方法を学びます。狭義の倫理学の知識だけではなく、社会学、心理学、歴史学等の知見を援用しながら、授業を進めます。

本講義はケーススタディを行います。センシティブなテーマも扱うので、受講する前に必ず内容を確認して、慎重に判断してください。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In applied ethics, we must examine "how we should act" while learning not only theory but also the reality of the field where ethical conflicts are arising. This course highlights one of the most controversial topics of our time, gender/sexuality, and promotes ethical reflection while studying the historical context and social structure behind social conflicts. The course will not only focus on knowledge of ethics in the narrow sense, but will also refer to findings from sociology, psychology, history and other disciplines.

This lecture will be based on case studies. I will also deal with sensitive topics, so please be sure to check the content and make a careful decision before attending the course.

5. 学習の到達目標：(1) ジェンダー/セクシュアリティについての基礎知識を身につける。

(2) 社会問題の背景にある構造や歴史的な脈・社会構造について理解する。

(3) 実際に起きている社会問題を、倫理的に検討するための基礎的な技術を身につける

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To acquire a basic knowledge of gender/sexuality.

(2) To understand the structures behind ethical conflicts and the historical context and social structures.

(3) To develop basic skills to examine actual social phenomena from an ethical point of view

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回： 「なぜ、ジェンダー/セクシュアリティについて学ぶのか？」(授業ガイダンス)

第二回：「男女平等であるべきか？」(フェミニズムの歴史、バックラッシュ、トランス差別等)

第三回：「家族は大事にすべきか？」(家父長制、軍隊と家族、人口政策、同性婚等)

第四回：質問への回答・ミニレポート・ディスカッション・映像教材視聴

第五回：「家庭内の暴力に第三者は介入すべきか？」(DV、児童虐待等)

第六回：「性暴力被害者を支援すべきか？」(司法制度内の性差別、トラウマ、被害者支援等)

第七回：「性表現を規制すべきか？」(マスメディアの性差別、ポルノ問題、インターネット等)

第八回：質問への回答・ミニレポート・ディスカッション・映像教材視聴

第九回：「男女は同じ労働をすべきか？」(教育・労働・スポーツにおける性差別等)

第十回：「性労働を合法化すべきか？」(避妊法、HIV/性感染症、セックスワーカーの権利等)

第十一回：質問への回答・ミニレポート・ディスカッション・映像教材視聴

第十二回：「薬剤による中絶を認めるべきか？」(中絶、ピル等)

第十三回：「障害を持つ子どもにも権利を保障すべきか？」(障害者運動の歴史、出生前診断等)

第十四回：質問への回答、ならびに試験についての説明

第十五回：全体のまとめ

毎時間、コメントシートを書いてもらいます。人数に応じて小グループで議論する機会を持つことがあります。積極的な授業参加を評価します。

みなさんから寄せられた質問に回答する回を定期的に設けます。

授業の理解度に合わせて進むスピードを調整します。

柔軟に授業の計画を変更しますので、あくまでも以上は授業の予定です。

8. 成績評価方法：

出席・コメントシート等の平常点 30%

学期末試験 70%

9. 教科書および参考書：

教科書

教科書はありません。必要に応じて資料を配布します。

参考書

伊藤公雄、樹村みのり、國信潤子『女性学・男性学 ジェンダー論入門』第3版、有斐閣アルマ、2019年。

清水晶子『フェミニズムってなんですか?』文春新書、2022年。

1 0. 授業時間外学習：授業の予習復習をして、参考書に目を通してください。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

科目名：倫理思想演習／ Western Ethical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：小松原 織香

コード：LB51307, 科目ナンバリング：LHM-PHI315J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ジェンダーの視点から倫理を議論する
 2. Course Title (授業題目)：Discussing ethics from a gender perspective
 3. 授業の目的と概要： この演習ではテキストを読み、内容を端的に理解し、他者へ説明するためのトレーニングを行います。そのため、事前に決めた担当者に指定範囲の文章を要約してもらいます。また、担当者には該当部分に関連する論点を出してもらいます。その後、参加者で議論をします。(最初の数回で、テキストの背景や要約の仕方、論点の出し方については講義します。)
 4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)： The aim of this course is to train students to read the text carefully, understand the content accurately and explain it to others. Each time, students summarise the text and suggest key points for discussion (the text will be distributed to the participants in advance). The participants then discuss the material together. (In the first few sessions, I give a lecture on the background of the text and how to make a summary).
 5. 学習の到達目標：(1) テキストを要約し、論点を出すことができる。
(2) 現実に起きている倫理的葛藤に対し、論理的に自己の見解を示すことができる。
 6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To summarise the text and bring out the key points of the discussion
(2) To logically provide your own views on real-life ethical conflicts.
 7. 授業の内容・方法と進度予定：
第一回：導入
第二回：入門講義(1)：テキストの背景
第三回：入門講義(2)：要約・論点出しの仕方、担当者決定
第四回：テキストの読解(1)
第五回：テキストの読解(2)(以下同様)
 8. 成績評価方法：
演習への参加度やレポートなどで総合的に判断する。
 9. 教科書および参考書：
テキストはプリントで配布します。
- 現在、予定しているテキストはジュディス・L・ハーマン『心的外傷と回復』です。
10. 授業時間外学習：担当者は配当された部分のテキストを要約し、論点を出してA41枚のレジュメを作成してください。事前に人数分をコピーし、授業で配布して内容を報告してもらいます。担当外の者は、テキストをしっかりと読んでください。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし
【重要】通年の受講が望ましい。
ジェンダー/セクシュアリティについての基礎知識がある前提で授業を進めます。前年度までに私の「ジェンダー/セクシュアリティと倫理」を受講しておくことが望ましいです。(必修ではありません) 自学する場合には、以下の参考書を読んでください。
清水晶子『フェミニズムってなんですか?』文春新書、2022年。

科目名：倫理思想演習／ Western Ethical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

Semester：5 単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LB53205, 科目ナンバリング：LHM-PHI315J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：フランス倫理学演習

2. Course Title (授業題目)：Seminar on French Moral Philosophy

3. 授業の目的と概要：フランスの高校生用の哲学の参考書 Denis Vanhouette, Philosophie, Term L, ES, S (Collection ABC du BAC), Nathan, 2015 から一部を抜粋して読みます。この参考書は、意識、他者、言語、労働、社会、幸福などのさまざまな主題ごとに章が分かれており、各章とも、関連するさまざまな問題や、その問題にさまざまな哲学者が出した答えを紹介し、最後に大学入学資格試験（日本の共通テストのようなもの）の問題が載っている、という作りになっています。それぞれのテーマについて学べるだけでなく、フランス社会での哲学倫理学の利用のされ方についてもいろいろ学ぶことのできる、とても興味深い本です。参加者の希望も聞きながら章の一つを選び、適宜カットしながら、できるだけその章の全体を読みます。各回とも全員に訳文を提出していただきます。ただし、各回とも訳文作成のためのヒントを事前に配布しますし、文法事項を丁寧に確認しながら進めますので、文法に不安がある場合でも受講できます。

なお、上記参考書の最新版はこちらです。

<https://site.nathan.fr/livres/philosophie-terminale-abc-du-bac-excellence-bac-2023-enseignement-commun-tle-cours-appfondissement-methode-exercices-et-sujets-corriges-cahier-special-bac-9782091574899.html>

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course we read a philosophy textbook for French high school students. The prospective key themes covered are Work and Technology.

5. 学習の到達目標：フランス語で書かれたテキストを正確に日本語に訳せるようになる。

演習内で扱われた主題が倫理学においてもつ重要性を学ぶ。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course aims to improve students' abilities to read philosophical texts in French and to translate them to Japanese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：導入（扱う主題とテキスト、著者の簡単な紹介、テキストの配布、進め方の説明、参加者のフランス語習熟度の確認、担当の決定など）

第二回以降：訳読、報告、議論

8. 成績評価方法：

出席、担当、参加度により総合的に判断します。

9. 教科書および参考書：

必要なものはすべてプリントで配布します。

フランス語学習については初級～中級までの参考書を授業内で紹介します。

10. 授業時間外学習：各回とも訳を用意し、授業前に提出してください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：倫理思想演習／ Western Ethical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：小松原 織香

コード：LB53404, 科目ナンバリング：LHM-PHI315J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：環境の視点から倫理を議論する
2. Course Title (授業題目) : Discussing ethics from a green perspective
3. 授業の目的と概要： この演習ではテキストを読み、内容を端的に理解し、他者へ説明するためのトレーニングを行います。そのため、事前に決めた担当者に指定範囲の文章を要約してもらいます。また、担当者には該当部分に関連する論点を出してもらいます。その後、参加者で議論をします。(最初の数回で、テキストの背景や要約の仕方、論点の出し方については講義します。)
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)： The aim of this course is to train students to read the text carefully, understand the content accurately and explain it to others. Each time, students summarise the text and suggest key points for discussion (the text will be distributed to the participants in advance). The participants then discuss the material together. (In the first few sessions, I give a lecture on the background of the text and how to make a summary).
5. 学習の到達目標：(1) テキストを要約し、論点を出すことができる。
(2) 現実に起きている倫理的葛藤に対し、論理的に自己の見解を示すことができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To summarise the text and bring out the key points of the discussion
(2) To logically provide your own views on real-life ethical conflicts.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第一回：導入
第二回：入門講義 (1)：テキストの背景
第三回：入門講義 (2)：要約・論点出しの仕方、担当者決定
第四回：テキストの読解 (1)
第五回：テキストの読解 (2) (以下同様)
8. 成績評価方法：
演習への参加度やレポートなどで総合的に判断する。
9. 教科書および参考書：
テキストはプリントで配布します。
現在、予定しているテキストは鬼頭秀一『自然保護を問いなおす 環境倫理とネットワーク』です。
10. 授業時間外学習：担当者は配当された部分のテキストを要約し、論点を出して A41 枚のレジュメを作成してください。事前に人数分をコピーし、授業で配布して内容を報告してもらいます。担当外の者は、テキストをしっかりと読んでください。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
【重要】 通年の受講が望ましい。

科目名：倫理思想演習／ Western Ethical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LB55207, 科目ナンバリング：LHM-PHI315J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：論証で辿る西洋倫理学史

2. Course Title (授業題目)：History of Western Ethics through Arguments

3. 授業の目的と概要：倫理学の醍醐味の一つは、道徳や幸福についてたんに意見を言うことではなく、そうした意見を根拠とともに主張したり、その根拠を吟味したりすることにあります。偉大な倫理学者たちが偉大なのにはさまざまな理由がありますが、その一つは、その人たちがしっかりした議論を作り、常識的な前提から、否定しがたいステップで、とてつもない帰結を引き出したりしたことに求めることができるでしょう。この演習では、プラトン以来の西洋倫理学史を、倫理学者たちのテキストから議論を再構成することを通じて学びます。

最初の数回で論証の再構成の仕方を学び、あとはひたすら倫理学者たちのテキストから論証を再構成していきます。たびたび課題を出しますので、演習の前に提出し、演習で素材として提示してください。それをもとに、みなで論証を検討していきます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this seminar, we will learn the history of Western ethics since Plato through reconstructing arguments from the texts of the great moral philosophers. In the first sessions, we will learn how to reconstruct arguments, and after that we will work on reconstructing arguments from the texts of the great moral philosophers. Assignments are frequent. Active participation is required.

5. 学習の到達目標：西洋倫理学史について一定の知識を身につける。

論証の再構成ができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goal of this seminar is to acquire a certain knowledge of the history of Western ethics and to be able to reconstruct arguments.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

(演習ですので、以下はあくまで予定であり、大いに変更の余地があります。)

第一回：ガイダンス

第二回：論証の再構成のやり方 (テキスト：野矢茂樹『新版 論理トレーニング』第四章)

第三回：論証の再構成のやり方 (テキスト：レイチェルズ「相対主義の挑戦」)

第四回：論証の再構成のやり方 (グーグルドキュメント上でダイアグラムを作る)

第五回：プラトン『ゴルギアス』より、不正を受けるよりもなすほうが悪いこと

第六回：アリストテレス『ニコマコス倫理学』より、幸福が最高の善であること

第七回：アリストテレス『ニコマコス倫理学』より、道徳的完成主義

第八回：トマス・アクィナス『神学大全』より、神の存在証明

第九回：ライブニッツ『理性に基づく自然と恩寵の原理』より、この世界が最善であること

第一〇回：パスカル『パンセ』より、賭けの議論

第十一回：カント『道徳の形而上学の基礎づけ』より、幸福が最高の善ではないこと

第十二回：ミル『功利主義』より、功利原理

第十三回：ムーア『倫理学原理』より、自然主義的誤謬の批判

第十四回：マッキー『倫理学』より、誤謬理論の証明

第十五回：まとめ

8. 成績評価方法：

課題の提出 70%、演習内のパフォーマンス 30%。

9. 教科書および参考書：

必要なものはすべてこちらで用意します。

10. 授業時間外学習：たびたび課題を出しますので、演習前に提出してください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

論証の再構成や論理学を学んだことのない学生向けの注意：最低限の知識は演習内で説明しますが、論証の再構成や論理学について自習したり読書会をしたりすることは演習を受ける上で非常に有益です。教科書としては野矢茂樹『新版 論理トレーニング』(産業図書)やノルト、ロハティ『マグロウヒル大学演習 現代論理学 (I)』(オーム社)をお勧めします。

論証の再構成や論理学を学んだことのある学生向けの注意：この演習での第一の目標は、古典的なテキストから前提／帰結関係を大づかみに取り出すです。そのため、議論の妥当性をチェックし

科目名：倫理思想演習／ Western Ethical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 3 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：小松原 織香

コード：LB61306, 科目ナンバリング：LHM-PHI315J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ジェンダーの視点から倫理を議論する
 2. Course Title (授業題目)：Discussing ethics from a gender perspective
 3. 授業の目的と概要： この演習ではテキストを読み、内容を端的に理解し、他者へ説明するためのトレーニングを行います。そのため、事前に決めた担当者に指定範囲の文章を要約してもらいます。また、担当者には該当部分に関連する論点を出してもらいます。その後、参加者で議論をします。(最初の数回で、テキストの背景や要約の仕方、論点の出し方については講義します。)
 4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)： The aim of this course is to train students to read the text carefully, understand the content accurately and explain it to others. Each time, students summarise the text and suggest key points for discussion (the text will be distributed to the participants in advance). The participants then discuss the material together. (In the first few sessions, I give a lecture on the background of the text and how to make a summary).
 5. 学習の到達目標：(1) テキストを要約し、論点を出すことができる。
(2) 現実に行き起きている倫理的葛藤に対し、論理的に自己の見解を示すことができる。
 6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To summarise the text and bring out the key points of the discussion
(2) To logically provide your own views on real-life ethical conflicts.
 7. 授業の内容・方法と進度予定：
第一回：導入
第二回：入門講義 (1)：テキストの背景
第三回：入門講義 (2)：要約・論点出しの仕方、担当者決定
第四回：テキストの読解 (1)
第五回：テキストの読解 (2) (以下同様)
 8. 成績評価方法：
演習への参加度やレポートなどで総合的に判断する。
 9. 教科書および参考書：
テキストはプリントで配布します。
- 現在、予定しているテキストはジュディス・L・ハーマン『心的外傷と回復』です。
10. 授業時間外学習：担当者は配当された部分のテキストを要約し、論点を出して A41 枚のレジュメを作成してください。事前に人数分をコピーし、授業で配布して内容を報告してもらいます。担当外の者は、テキストをしっかりと読んでください。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし
【重要】通年の受講が望ましい。
ジェンダー/セクシュアリティについての基礎知識がある前提で授業を進めます。前年度までに私の「ジェンダー/セクシュアリティと倫理」を受講しておくことが望ましいです。(必修ではありません) 自学する場合には、以下の参考書を読んでください。
清水晶子『フェミニズムってなんですか?』文春新書、2022 年。

科目名：倫理思想演習／ Western Ethical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LB63209, 科目ナンバリング：LHM-PHI315J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：フランス倫理学演習

2. Course Title (授業題目)：Seminar on French Moral Philosophy

3. 授業の目的と概要：行為の哲学や感情の哲学の分野で著名な哲学者であるクリスティーヌ・タポレの論文「自律と意志の弱さとをめぐるパラドクス」を読みます。「自律は自己コントロールを要求する（自分の行為を自分で決定するためには、自分を自分で制御できないといけない）」、「自由は自律を要求する（自由であるためには、自分の行為を自分で決定できないといけない）」、そして「意志の弱さによる行為も自由でありうる」という、一見すると自明な三つの命題から、パラドクスを取り出し、自由をめぐる問題に鋭く切り込んでいく、実質3ページ程度ととても短いながらも明快かつとても面白い論文です。適宜カットすれば半期で読み切れると思います。

各回とも全員に訳文を提出していただきます。ただし、各回とも訳文作成のためのヒントを事前に配布しますし、文法事項を丁寧に確認しながら進めますので、文法に不安がある場合でも受講できます。

なお、タポレの紹介ページはこちらです。

<https://recherche.umontreal.ca/english/our-research+F35hers/professors-directory/researcher/is/in14507/>

論文はこちらです。学内からダウンロードできます。

<https://www.cairn.info/revue-raison-publique-2017-2-page-153.htm>

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course we read Christine Tappolet's article "Autonomie et faiblesse de la volonté : un paradoxe". The key themes covered are: autonomy, weakness of the will, self control, and freedom of the will.

5. 学習の到達目標：自由や自律、意志の弱さの関係について学ぶ。

また、これらの主題が倫理学においてもつ重要性を学ぶ。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course aims to improve students' abilities to read philosophical texts in French and to translate them to Japanese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：導入（扱う主題とテキスト、著者の簡単な紹介、テキストの配布、進め方の説明、参加者のフランス語習熟度の確認、担当の決定など）

第二回以降：訳読、報告、議論

8. 成績評価方法：

出席、担当、参加度により総合的に判断します。

9. 教科書および参考書：

必要なものはすべてプリントで配布します。

フランス語学習については初級～中級までの参考書を授業内で紹介します。

10. 授業時間外学習：各回とも訳を用意し、授業前に提出してください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：倫理思想演習／ Western Ethical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：小松原 織香

コード：LB63403, 科目ナンバリング：LHM-PHI315J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：環境の視点から倫理を議論する
2. Course Title (授業題目) : Discussing ethics from a green perspective
3. 授業の目的と概要： この演習ではテキストを読み、内容を端的に理解し、他者へ説明するためのトレーニングを行います。そのため、事前に決めた担当者に指定範囲の文章を要約してもらいます。また、担当者には該当部分に関連する論点を出してもらいます。その後、参加者で議論をします。(最初の数回で、テキストの背景や要約の仕方、論点の出し方については講義します。)
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)： The aim of this course is to train students to read the text carefully, understand the content accurately and explain it to others. Each time, students summarise the text and suggest key points for discussion (the text will be distributed to the participants in advance). The participants then discuss the material together. (In the first few sessions, I give a lecture on the background of the text and how to make a summary).
5. 学習の到達目標：(1) テキストを要約し、論点を出すことができる。
(2) 現実には起きている倫理的葛藤に対し、論理的に自己の見解を示すことができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To summarise the text and bring out the key points of the discussion
(2) To logically provide your own views on real-life ethical conflicts.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第一回：導入
第二回：入門講義 (1)：テキストの背景
第三回：入門講義 (2)：要約・論点出しの仕方、担当者決定
第四回：テキストの読解 (1)
第五回：テキストの読解 (2) (以下同様)
8. 成績評価方法：
演習への参加度やレポートなどで総合的に判断する。
9. 教科書および参考書：
テキストはプリントで配布します。
現在、予定しているテキストは鬼頭秀一『自然保護を問いなおす 環境倫理とネットワーク』です。
10. 授業時間外学習：担当者は配当された部分のテキストを要約し、論点を出して A41 枚のレジュメを作成してください。事前に人数分をコピーし、授業で配布して内容を報告してもらいます。担当外の者は、テキストをしっかりと読んでください。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
【重要】通年の受講が望ましい。

科目名：倫理思想演習／ Western Ethical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LB65206, 科目ナンバリング：LHM-PHI315J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：人文学の意義を倫理的に考える
2. Course Title (授業題目)：Value of Humanities: Examination from the View Point of Ethics
3. 授業の目的と概要：アメリカの哲学・倫理学者であるマーサ・ヌスバウムの『経済成長がすべてか：デモクラシーが人文学を必要とする理由』（岩波書店）を読み、人文学を学ぶ意義を主に（「倫理的」ではなく）倫理的な観点から考え、議論します。本書でヌスバウムは、タイトルに掲げた通りの問いに取り組みつつ、感情の道徳的価値、議論が民主主義にとってもつ重要性、文学作品を読むことの意義などを論じていきます。この演習では、担当者の要約を踏まえて参加者で議論したり、論証らしきものがあつたら再構成を試みたり、といった仕方、ヌスバウムの議論を検討し、上記の問いを考えていきます。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We will read Martha Nussbaum's Not for Profit: Why Democracy Needs the Humanities, and discuss the significance of studying the humanities primarily from an ethical (not "ethical") perspective.
5. 学習の到達目標：人文学の意義について考え、一定の意見を形成する。
実践的な問題についての論証の再構成と検討や、自分なりの議論の提示ができるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students learn how to examine the significance of the humanities.
Students will be able to reconstruct and examine arguments on practical issues and advance their own arguments.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第一回：ガイダンス
第二回以降：担当者による要約と参加者全員による議論
8. 成績評価方法：
要約 60 パーセント、授業内パフォーマンス 40 パーセント
9. 教科書および参考書：
マーサ・ヌスバウム『経済成長がすべてか：デモクラシーが人文学を必要とする理由』岩波書店（ただし、演習で用いる範囲についてはこちらで用意します）
10. 授業時間外学習：演習はみなさんの発言によって進みます。テキストをよく読み、検討し、反論や異見を考えておいてください。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし